フードマッチングフェア

学生開発のチョコレートを出品

山陽学園大学

山陽学園大学（岡山市）の地域マネジメント学部地域マネジメント学科・神田將志准教授のゼミナールに所属する学生は昨年末11月20日、コンベックス岡山大展示場で開かれた「フードマッチングフェア２０２４・第12回地方創生トマトアグリフードフェア」に参加した。

来場者に向けて商品を販売する神田ゼミナールの学生

県内企業等に対し新商品をピーアールする場を設けるこのフェアを主催したのは、いずれも岡山市に拠点を構える公益財団法人岡山県産業振興財団、株式会社トマト銀行、岡山県信用保証協会の三者。参加した学生は「いつかのきみと津山珈琲」と銘打った２種類のチョコレート商品を販売した。

これは、岡山県津山市が実施する「津山まちじゅう博物館構想高等教育機関連携事業」において、山陽学園大の神田ゼミの学生と岡山県立津山商業高等学校（岡山県津山市）の生徒が共に開発した地域ブランド商品だ。この事業では、昨年９月14～16日にかけて地域ブランド商品の開発をテーマにフィールドワークを実施。当日は同大地域マネジメント学部神田ゼミ、津山商業高校のほか、美作大学（同）の生活科学部、千葉商科大学（千葉県市川市）の商経学部が実習に参加し、食品系・グッズ系のチームに分かれて商品の構想を行った。

食品系のチームとなった神田ゼミの学生と津山商業高校の生徒は、若者に向けて津山市の魅力を伝えることができる商品についての企画を進めていった。その中で、津山藩の洋学者・宇田川榕菴が「珈琲」という当て字を考えたことに着目。この逸話を踏まえて、「いつかのきみと津山珈琲」と名づけたチョコレートの商品化を決定した。このチョコレートはコーヒー豆を素材として利用しており、若者が手に取りやすい洋菓子であると同時に、「珈琲」と縁深い津山市の歴史を感じさせるものとなっている。

11月20日に開催されたフードマッチングフェア２０２４に出品した際には、板チョコレート70枚と生チョコレート50個が完売となるなど好評を博し、関西の百貨店の担当者からは「バレンタインフェアに販売に来て欲しい」という声が寄せられたほか、来場した多くの企業からも高い評価を受けた。

『大學新聞』第235号（令和７年1月10日発行）掲載